

女影廃寺跡・大寺廃寺跡・高岡廃寺跡(日高市)

おなかげはいじあと おおでらはいじあと たかおかはいじあと



女影廃寺(若宮遺跡の一部)

女影廃寺付近は若宮遺跡と呼ばれ、高麗郡衙、高麗郡寺の比定地の一つになっている/若宮遺跡は市の中央を西から東へ蛇行しながら流れる、下小畔川と小畔川に挟まれた標高59~65mの東西に長い台地上の斜面地に立地しており、遺物は8世紀中頃から10世紀にかけてのもの/女影廃寺は高麗郡設置(8世紀第24半期)とともに建立?9世紀後半まで存続したという

ここは県道川越日高線の女影交差点



前方の左手の木々の辺りが霞野神社



ここが中先代の乱の舞台の一つ、女影ヶ原古戦場跡の霞野神社



前面の道路は鎌倉古道のようである





前方に社殿が見える



右手に説明板が立っている



霞野神社の本殿 付 剣道の懸額 市指定文化財 建造物

平成2年3月10日 指定

当初は諏訪神社と称し女影村社でしたが、明治43年に女影村社の白髭神社、中沢村社の白髭神社など12社を合祀して霞野神社と改めました。

祭神に猿田彦命、軻遇突智命、建御名方命など14身を祀っています。

本殿は江戸時代末の作と考えられています。柱の上の組物と呼ばれる箇所は、上部からの荷重を支える部分です。ここには、獺、獅子頭の彫刻が施されています。身舎の前方に底を付けた形式の一間社流造で、屋根はこけら葺きです。

懸額は、文久元年(1861年)四月穀日に、甲源一刀流の比留間和十郎源信治の門弟が奉納したものです。

霞野神社の獅子舞諸道具 市指定文化財 有形民俗文化財

昭和57年12月8日 指定

昭和30年代の例祭は10月17日に行われ、豊作祈願と雨乞いを祈願して氏子が獅子舞を奉納していました。諸役は、獅子、天狗(猿田彦命)、オカメ(天細女命)、貝吹き(山伏)、ササラ、ひょっとこ、笛方、歌方です。獅子は男獅子、女獅子、太夫獅子の3頭で一組です。

現在、獅子舞は行われていませんが、獅子頭、天狗面、オカメ面、ほら貝など使われていた諸道具が、氏子により大切に保管されています。

女影ヶ原古戦場跡 埼玉県指定文化財 旧跡

昭和36年9月1日 指定

建武2年(1335年)に、滅亡した鎌倉幕府最後の執権北条高時の遺児時行が、鎌倉幕府復興のために信濃で挙兵しました。時行の軍は女影ヶ原で足利尊氏の弟直義が派遣した軍勢を破りました。その後も小手指ヶ原(所沢市)、分倍河原(府中市)でも破りました。ついには直義自ら出陣して、武蔵井出ノ沢(町田市)で迎え撃ちましたが、ここでも敗れました。時行は鎌倉を一時的に支配しました。この一連の戦を中先代の乱といいます。

鎌倉街道

鎌倉時代に幕府の所在地の鎌倉と東国を結ぶために整備された道路です。鎌倉街道には、信濃、越後方面を結ぶ「上道」、奥州方面を結ぶ「中道」、下総、常陸方面に向う「下道」の三本の幹線道路がありました。

日高市を通過している「上道」は狭山市柏原から入り、大谷沢、女影、駒寺野新田を経て毛呂山町大類へと向います。

霞野神社の西を南北に走る鎌倉街道の「上道」は、度々中世の合戦の舞台となった歴史の道です。

平成21年1月
日高市教育委員会

拜殿



左手が拝殿、右手が本殿



正面に石碑が立っている



「史蹟 女影原古戦場跡 埼玉縣」とある



さて、これは霞野神社の鳥居の辺りから女影交差点方向を見たところ



その左手のエリアに女影廃寺が所在するようだ



これは西側にある女影本村公会堂の辺りから東方向に女影廃寺のエリアを見たところ/前方の木々のところが霞野神社



女影廃寺が所在すると思われるエリア(赤大マーク)/赤小マークは霞野神社



大寺廃寺

大寺廃寺の発掘調査を昭和56～60年度にかけて行い、礎石を用いた建物跡5棟を検出した/8世紀中頃から9世紀後半に存続していた古代寺院で、毛呂山丘陵南端の標高90～100mの緩やかな斜面地に位置している/高麗氏との関係有り(氏寺)?/指定されている遺構は、東西3軒(6.9メートル)×南北3間(南北7.8メートル)の建物跡

県道30号線から入った上大寺付近



馬頭観音が立つ



前方が大寺廃寺跡付近(白い看板が見える)



説明板が立っている



大寺廢寺跡

日高市指定文化財(史跡)

埼玉県選定重要遺跡

所在地

日高市大字山根字大寺一三一六

平成二年三月十日 指定

大寺廢寺跡は、毛呂山丘陵南端部に位置し、日高市と毛呂山町にまたがって存在します。

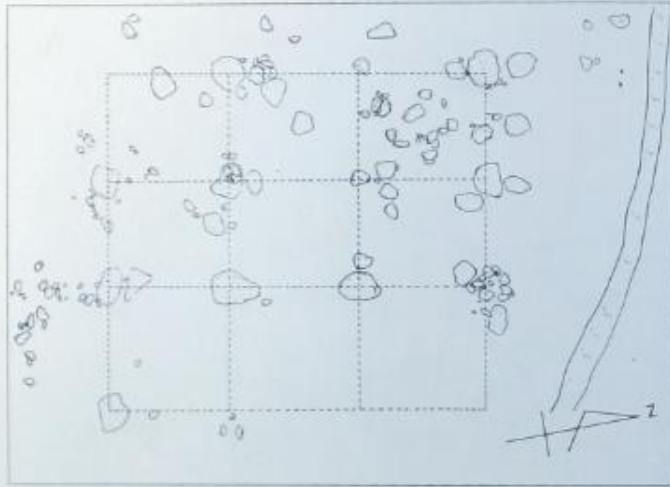
昭和五十六年度から六十年間にかけて行った範囲確認調査で、建物跡五棟、中世の遺構一基(毛呂山町)が検出されました。市の文化財に指定されたのは、礎石を伴う東西三間(六・九メートル)、南北三間(七・八メートル)のやや南北に長い建物跡一棟です。

遺物は、軒丸瓦、軒平瓦、

丸瓦、平瓦、鬼瓦、鉄釘、青銅製風鐸などが出土しています。出土した遺物から当廢寺は八世紀前半に創建され、中世まで存続したと考えられています。

当廢寺の性格は、創建期の平城宮系の軒丸瓦から高麗氏の私寺(氏寺)として建てられたものではないかと推測されています。

南東約二・五キロメートルの所には高麗神社が位置しています。



平成八年三月

日高市教育委員会

礎石らしきものが転がっている





ここが三間四方の建物跡であろうか



礎石をアップで見るところ



これは近くにある供養等群



墓地もある



正面はその中にある石造祠らしきもの



墓地の奥は埼玉ゴルフクラブのネットフェンスが立っている



さて、今度は埼玉ゴルフクラブ側の山根六角塔婆からアプローチしてみる



右側に道を行くと、山道を通り大寺廃寺跡に向かう/左手に見える建物には宿谷地蔵尊が安置されている/右側道に沿って少し進んだ左側に山根六角塔婆がある



これが宿谷地藏尊



こちらは山根六角塔婆の標柱



前方の覆屋の中に山根六角塔婆がある



埼玉県指定文化財

山根六角塔婆

これを囲む六枚の塔婆は現在五枚しか残っていない。その一枚に次の様に刻まれている。

右発起大徳道教 為先亡与存生
建立六角塔婆願以此功 自他同
證無上菩提 貞和二曆丙戌初冬
中旬敬白

昭和六年県文化財に指定された当時は此處は山根村内であった。

昭和五十七年十月

毛呂山町教育委員会

高德の僧、道教を含め少なくとも6名の僧により建立され、お経が刻まれ、我と衆生と皆供に成仏を願ったものであることから、大寺
廃寺の僧により建立されたものと推定されるという



五枚しか残っていない



それでは大寺廃寺跡方面に向かおう/ここを進む



大分歩くと「大寺廃寺跡」という標識がある





この道を右手に進む



すると大寺廃寺跡に辿り着いた/説明板が立っているのが見える



高岡廃寺

高岡廃寺は外秩父山地の東端に位置している。寺院跡は東の延びるきゅうりょうからさらに小さく南に突き出す標高160~170mの小丘陵の南斜面に立地している/ 昭和51年にゴルフ場造成工事に伴う発掘調査により建物跡4棟などの遺構が検出され、全容が明らかになった/8世紀中頃に寺院の造営が始まり、11世紀初めには廃寺になった/僧勝楽の菩提寺(751年没)の可能性あり

おそらくこの辺りと思われる所を廻って見たが、場所は特定できず



清流という場所から高岡という場所の南斜面（Jゴルフ鶴ヶ島方向）を見たところ



こんな雰囲気のエリアなのであろうか



高岡廃寺のエリア(赤大マーク)/赤小マークは聖天院(高岡廃寺は聖天院の前身の寺とされる)



参考ホームページ

<http://www.city.hidaka.lg.jp/6.961.24.104.html>

http://blogs.yahoo.co.jp/sakado_iwasaki/folder/804777.html?m=lc&p=11

http://www.geocities.co.jp/sundovani/koma/kodaitousen_1.htm